

ULURU

労働力不足解決カンパニー

2026年3月期 第1四半期
決算説明資料

2025年8月14日
株式会社うるる
東証グロース(3979)

※当社HP(<https://www.uluru.biz/ir/>)にExcel形式の
決算データシートを掲載しておりますので、適宜
ご活用いただけますと幸いです。



01

エグゼクティブサマリー

FY26/3 1Q 実績(全社)

売上高 **1,699** 百万円

前年同期比+14.4%

EBITDA **201** 百万円

前年同期比+87.3%

営業利益 **128** 百万円

前年同期比+115.9%

親会社に帰属する
四半期純利益 **192** 百万円

前年同期比+298.4%

決算サマリー

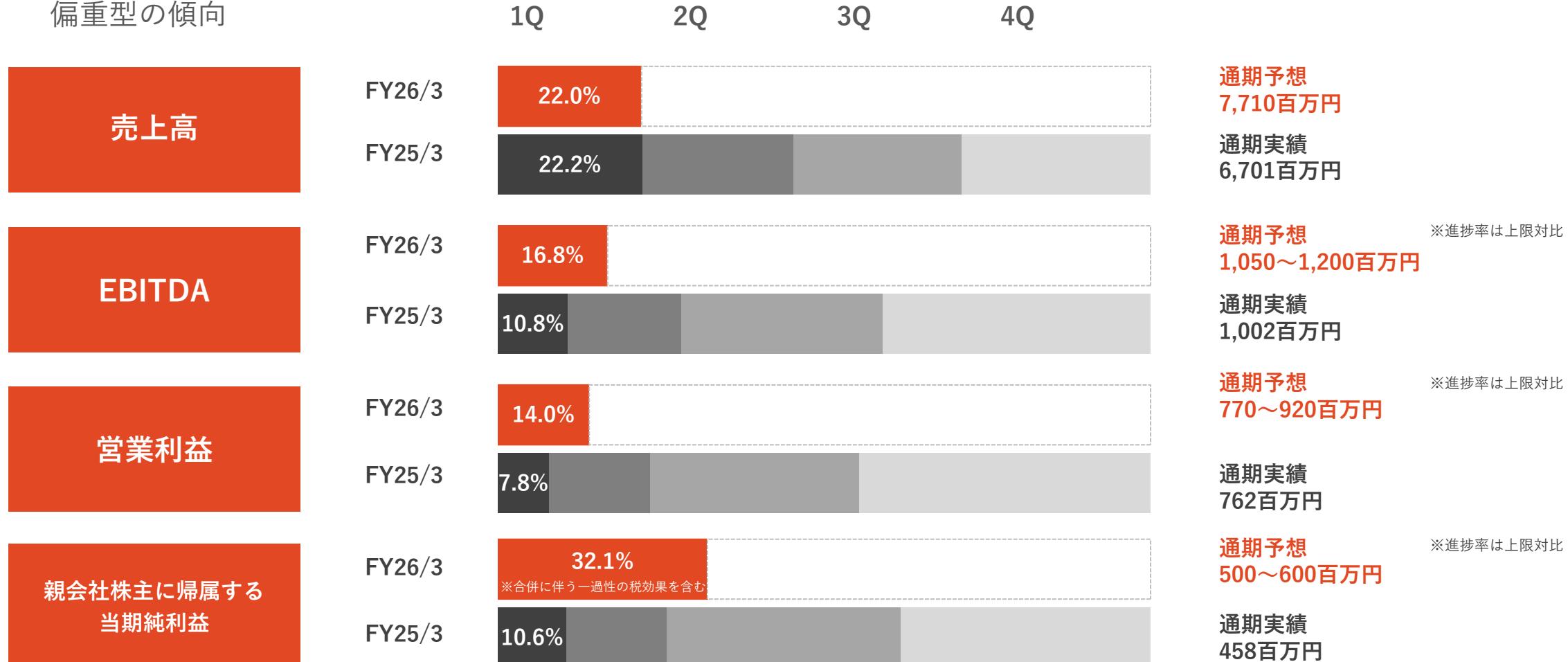
- 全社で**前年同期比増収増益**。通期業績予想の達成に向け、**好調なスタート**
- 主力NJSS事業でサブスクリプション売上を順調に積み上げ、成長を牽引
- fondesk事業への戦略的なマーケティング投資や全社的な人的資本投資を計画通り実行し、中長期的な成長基盤を構築
- 通期業績予想に対する**進捗率は売上高で22.0%（前年同期22.2%）**、**EBITDAで16.8 %（同10.8%）**となり、順調な滑り出し

トピックス

- 投資家層の拡大と株式の流動性向上のため、2025年10月1日を効力発生日として、**1：4の割合で株式分割**することを決定

FY26/3通期業績予想に対する進捗率(全社)

- 2025年5月に開示した通期業績予想に対して、売上高は前期並み・利益は前期を上回るペースで順調に進捗
- 主力サービスがサブスクリプションモデルであること、フォトおよびBPO事業に季節性の影響があることから、下期偏重型の傾向



- 東京証券取引所が推進する投資単位の引下げに関する趣旨^{※2}を踏まえ、投資単位の引き下げによる**投資家層の拡大**と**売買流動性の向上**を目的に、**1株につき4株の割合で株式分割**
- 2026年3月期の配当予想は、実質的に変更なし

株式分割の分割割合

1 株  **4 株**

普通株式1株につき4株の割合をもって分割

- ・ 基準日： 2025年9月30日
- ・ 効力発生日： 2025年10月1日

配当について

- 2026年3月期の年間配当金は2円75銭の予定
(株式分割前換算の1株当たり11円00銭から継続)

	中間	期末	年間
2026年3月期 従来配当予想	0円	11円00銭	11円00銭
2026年3月期 分割後配当予想	0円	2円75銭	2円75銭

株主優待の取り扱い

対象：**1単元(100株)以上保有株主**

優待内容：自社サービスOurPhoto3,000円割引クーポン1枚

- **4分割後も優待対象を維持**することで、より多くの株主によるサービス利用の拡大とそれに伴う認知度向上を目指す



02

四半期 連結業績ハイライト

- 全事業のオーガニック成長により、**売上高は前年同期比+14.4%と順調に成長**
- EBITDAをはじめとした各段階利益**は、成長投資を実施しながら、いずれも**レンジ上限の20%成長に向け順調に進捗**

(単位：百万円)	1Q実績 (百万円)	前年 同期比	通期予想 (百万円)	進捗率	コメント
売上高	1,699	+14.4%	7,710	22.0%	<ul style="list-style-type: none"> 全事業が着実に成長。特にNJSS事業のサブスクリプション売上が全社を牽引
EBITDA	201	+ 87.3%	1,050～1,200	16.8～19.2%	<ul style="list-style-type: none"> 増収効果に加え、生産性向上への取り組みが奏功
営業利益	128	+ 115.9%	770～920	14.0～16.7%	<ul style="list-style-type: none"> fondesk事業の戦略的なマーケティング投資や、将来の成長に向けた採用・開発体制の強化費用を吸収し、大幅な増益を達成
経常利益	134	+ 63.9%	770～920	14.6～17.5%	
親会社株主に帰属する 四半期純利益	192		500～600		<ul style="list-style-type: none"> 主に2025年4月1日付OurPhoto株式会社の吸収合併に伴う繰越欠損金引継ぎ及び税効果会計処理の結果、法人税等が減少し、親会社株主に帰属する四半期純利益が当初の予想を上回る
1株当たり 四半期純利益(円)	27.85	+ 298.4%	18.07～21.68*	32.1～38.5%	

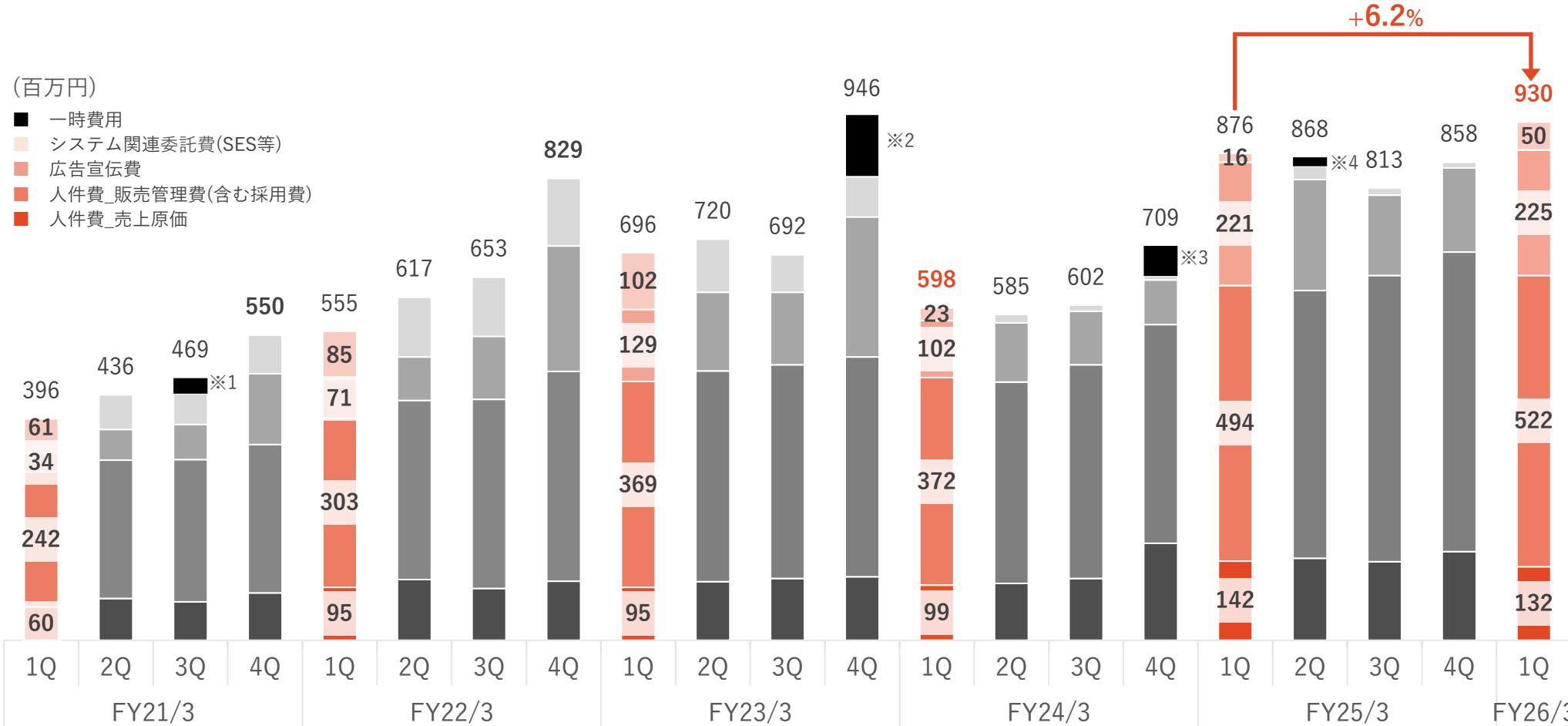
FY26/3第1四半期決算業績(セグメント別)

(単位：百万円)	FY26/3 1Q実績	前年 同期比	FY26/3 予想	進捗率	コメント
NJSS	売上高 896	+17.7%	3,610*	24.8%	<ul style="list-style-type: none"> サブスクリプション売上とARPUが力強く成長し、売上高は前年同期比+17.7%。高い収益性を維持しつつ、将来への開発投資も継続
	EBITDA 447	+38.0%	1,740～1,790*	25.0～25.7%	
fondesk	売上高 277	+17.3%	1,160	23.9%	<ul style="list-style-type: none"> 売上高は前年同期比+17.3%。認知度向上のためのマーケティング投資を計画通り実施し、ARRは着実に積み上げ
	EBITDA ▲2	—	0～110	—	
フォト (えんフォト・ OurPhoto)	売上高 187	+11.5%	960	19.6%	<ul style="list-style-type: none"> 「えんフォト」のカメラマン派遣撮影比率の増加、「OurPhoto」の撮影件数増が寄与し、前年同期比+11.5%の増収。プロダクトの磨き込みに向けた先行投資フェーズ
	EBITDA ▲17	—	0～10	—	
BPO	売上高 331	+5.9%	1,900	17.4%	<ul style="list-style-type: none"> 業務効率化による採算性改善が進み、前年同期の赤字から黒字へ転換。安定的な収益基盤を構築
	EBITDA 8	—	330～350	2.3～2.5%	

※ 初当業績予想開示時においてNJSS事業に含めていた、特定の新規施策に関する売上高を、新規事業等のセグメントへ移管。この変更に伴い、業績予想数値を見直し。具体的には、NJSS事業の売上高・EBITDA予想を60百万円減額し、「その他CGS事業」の売上高予想を同額増額。なお、本変更は報告セグメント間の振替によるものであり、当社グループの連結業績予想に与える影響はなし

主な費用推移

- 人件費の増加は計画的な成長投資によるもの。広告宣伝費は重点事業への集中と他事業の最適化を進め、コスト全体として規律ある運用を継続

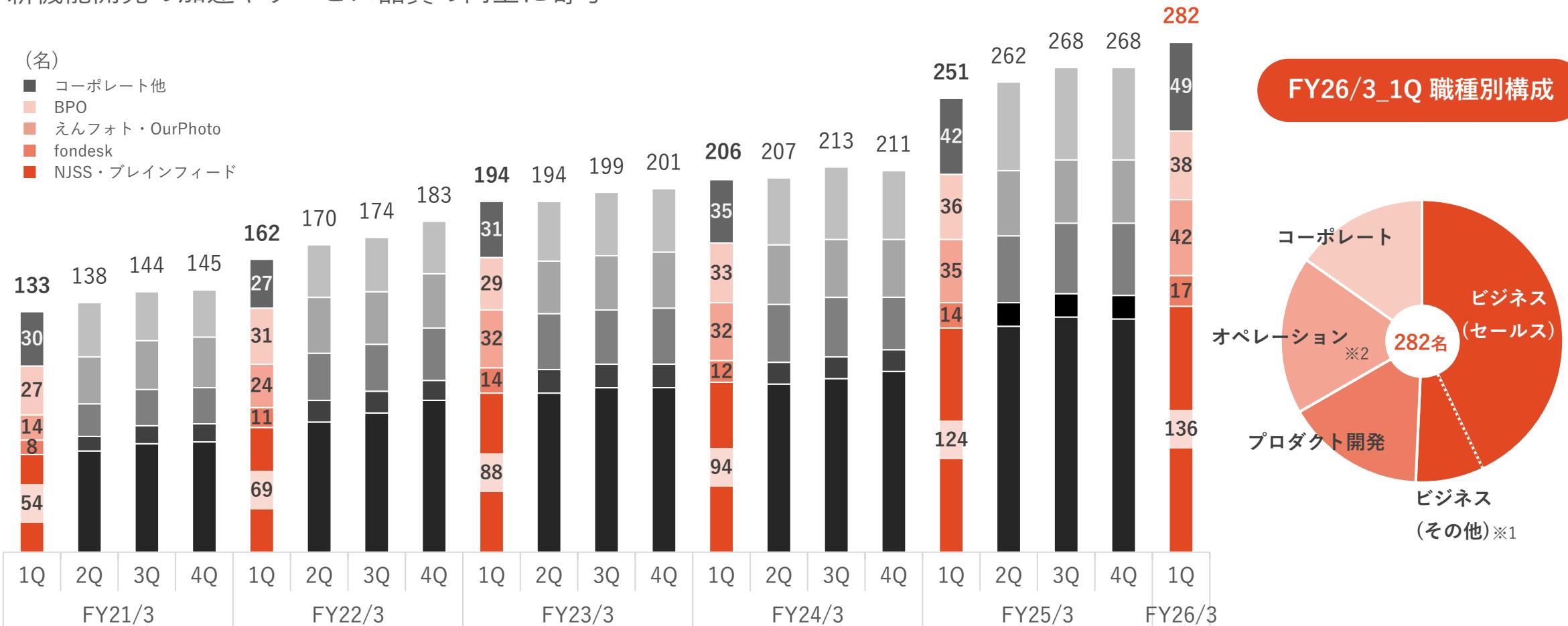


※1 M&A(OurPhoto子会社化)関連費用等 ※2 徳島第三・大分センター設立費用、M&A(ブレインフィード子会社化)関連費用等

※3 決算賞与関連費用 ※4 M&A(検討を含む)関連費用等

事業別従業員数推移(正社員のみ)

- 前期に中長期的な成長基盤を構築するため人員を拡大したことから、今期は積極的な採用は行わず、組織の最適化を図るフェーズ。正社員数は前年同期比で31名純増（うち新卒8名）。前期に採用した人材の育成と定着が進んだことにより、新機能開発の加速やサービス品質の向上に寄与



※1 マーケティング、事業企画、新規事業開発、等

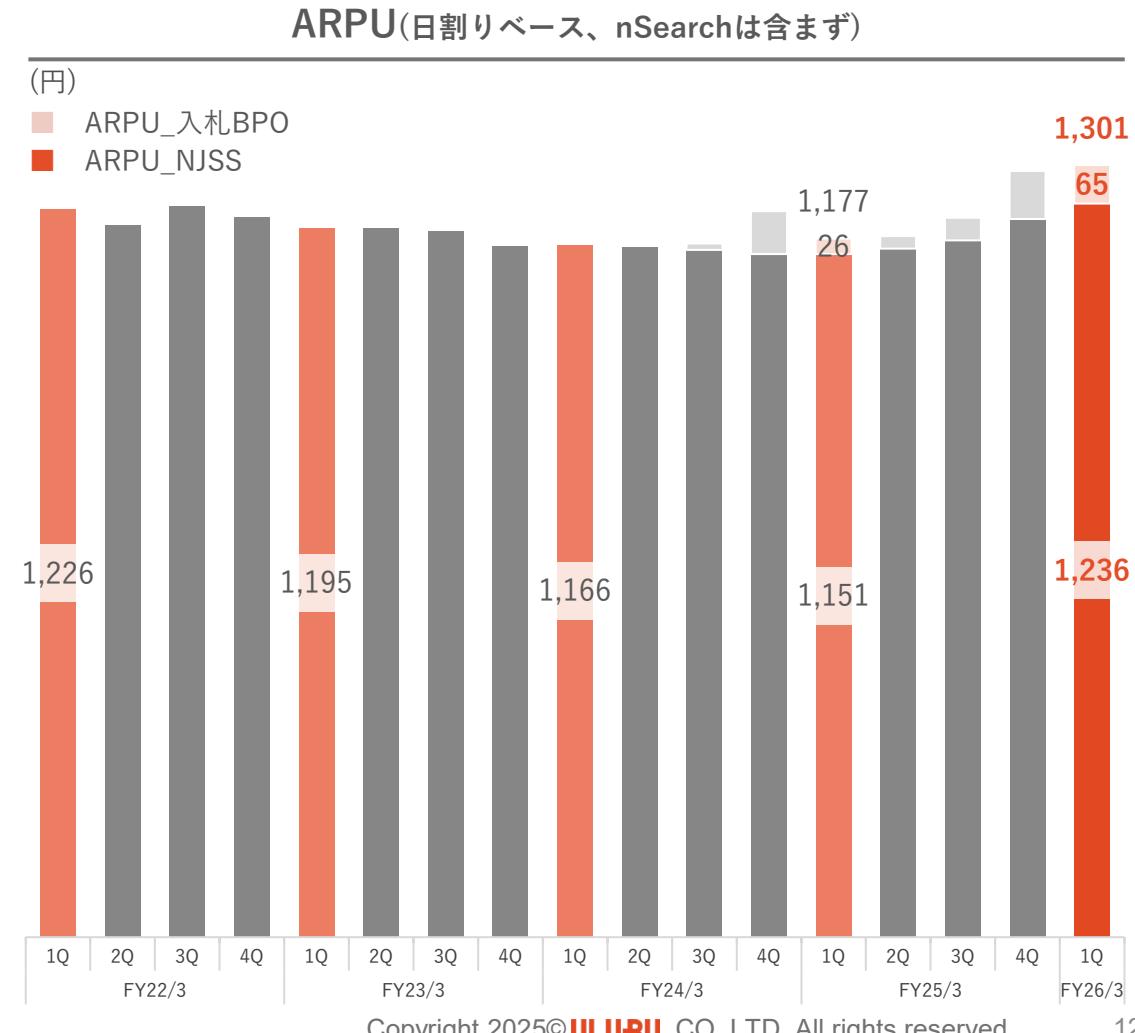
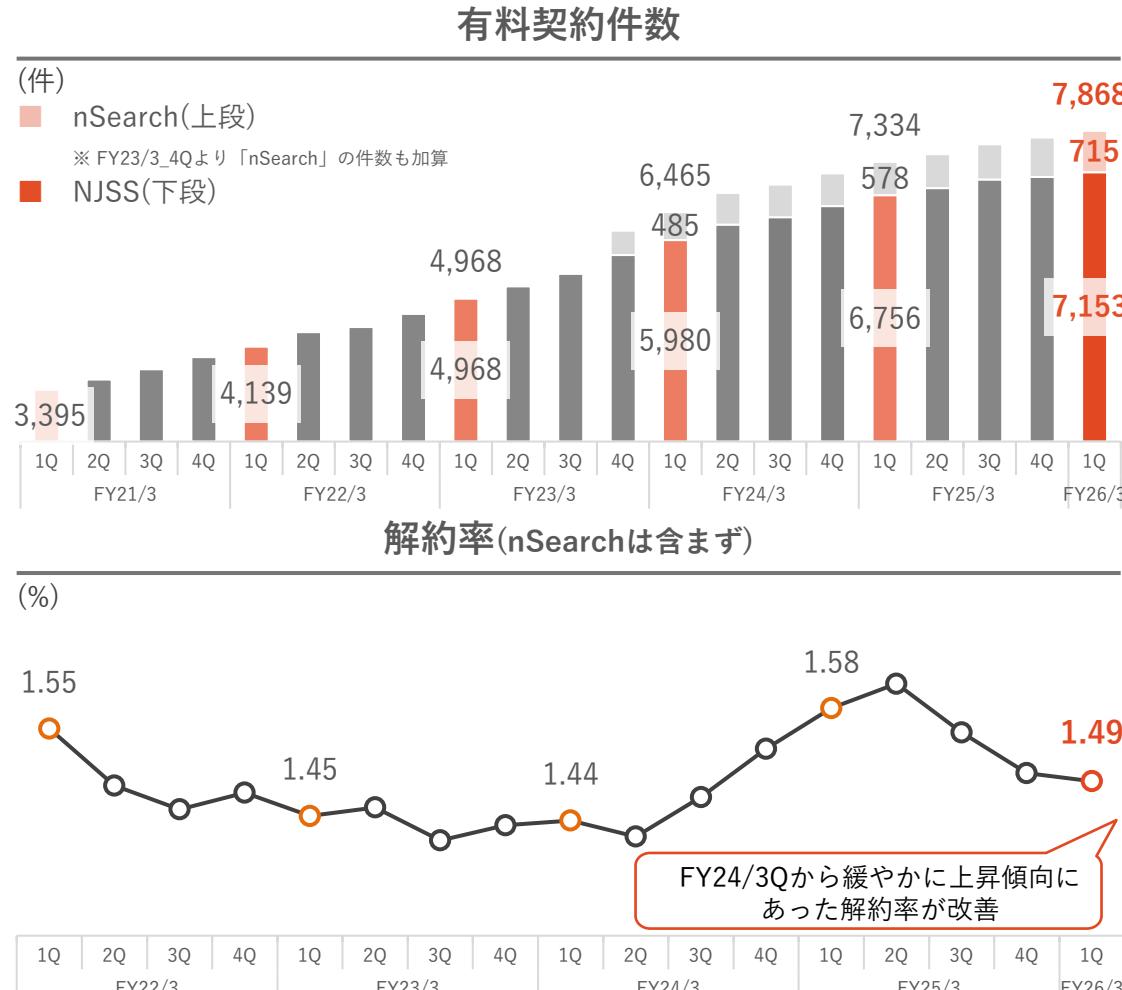
※2 事業・サービス運営、営業事務、案件施工(BPO)、等



03

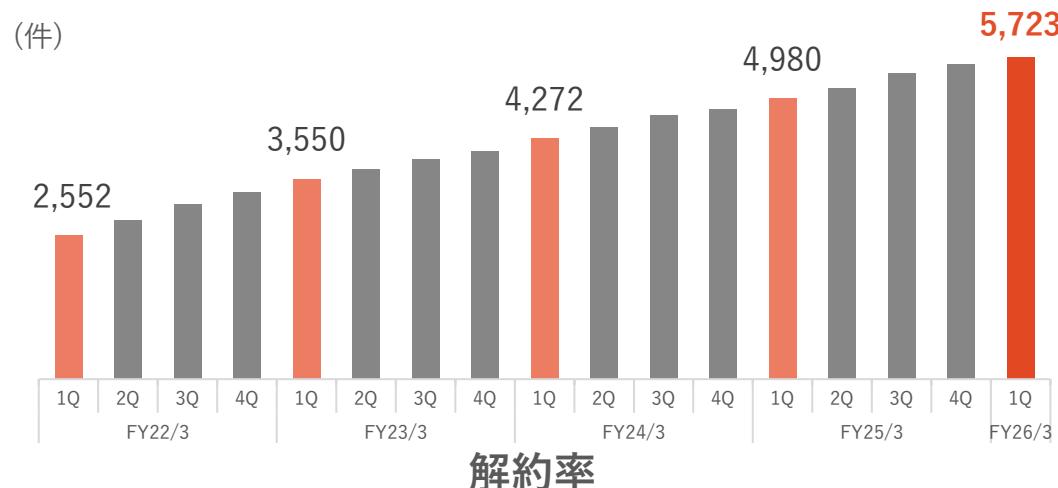
事業別KPI・トピックス

- 「NJSS & nSearch」の有料契約件数は、前年同期比+7.3%。継続的なプロダクト開発を通じて顧客価値を高めた結果、解約率が改善し、ARPUの向上と解約率の改善を両立

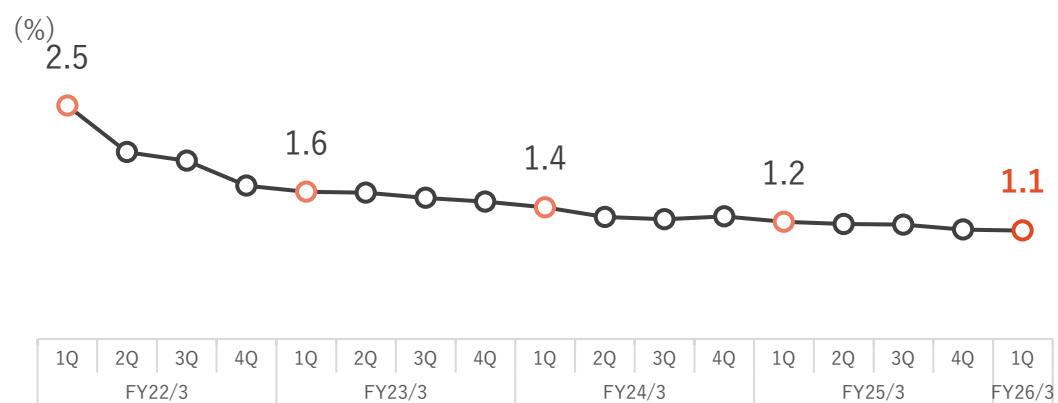


- 有料契約は5,700件を突破
- 継続的なプロダクト・サービス改善により、解約率は1.1%まで低下。ARPU向上にも寄与

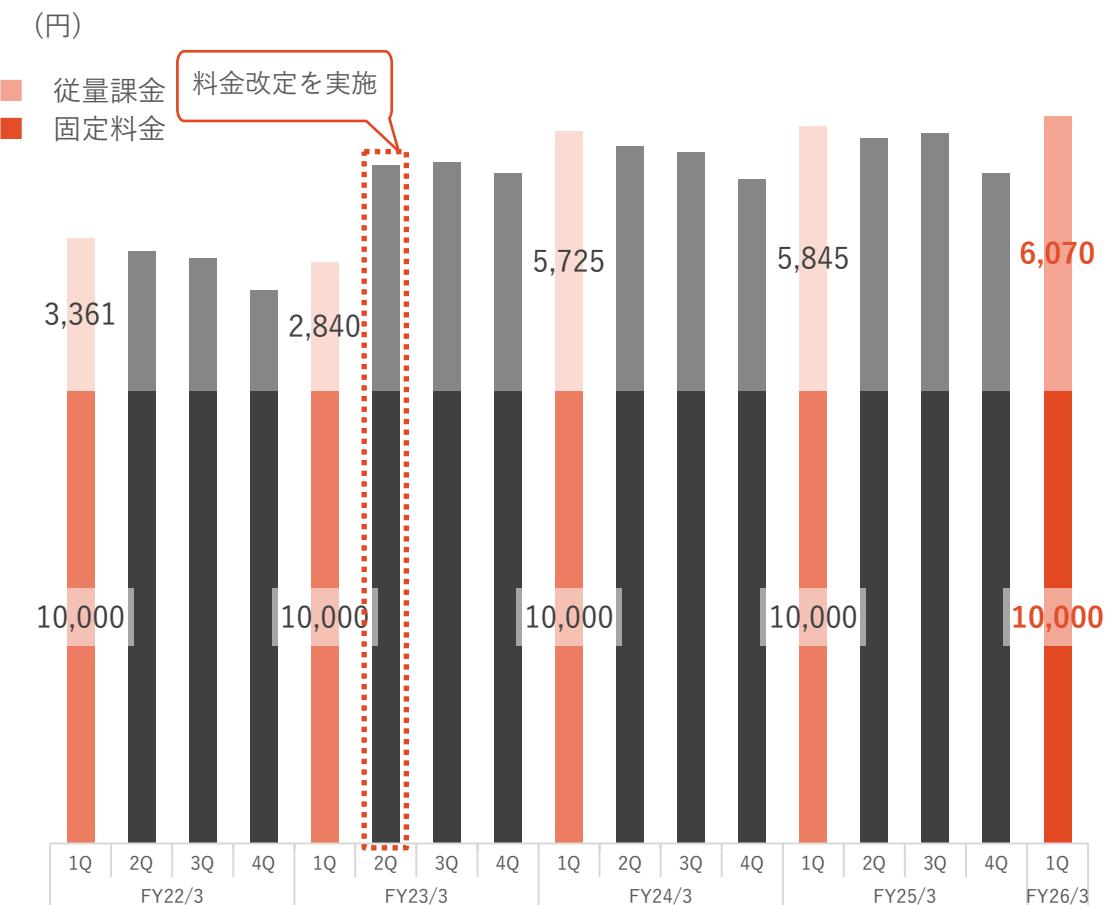
有料契約件数



解約率



ARPU(日割りベース)



※ ARPUは契約一件当たり月割り売上高、かつFY21/3_3QとFY21/3_4Qは収益認識基準変更前の数値で算出。

解約率は、有料契約件数をベースにした直近12ヶ月の平均月次解約率。※上記KPIにfondeskIVRの実績は含まない。

- 2025年6月16日より3週にわたり、「fondesk IVR」として初となるタクシー広告放映開始。誰もが一度は目にしたことのある“職場の電話あるある”をテーマに、「fondesk IVR」の価値である「シンプル・誰でも使える・低価格」を詰め込んだ内容として制作

2パターンのCMを制作・放映



中華料理店 編



動画：https://youtu.be/IBCUKndT_cc

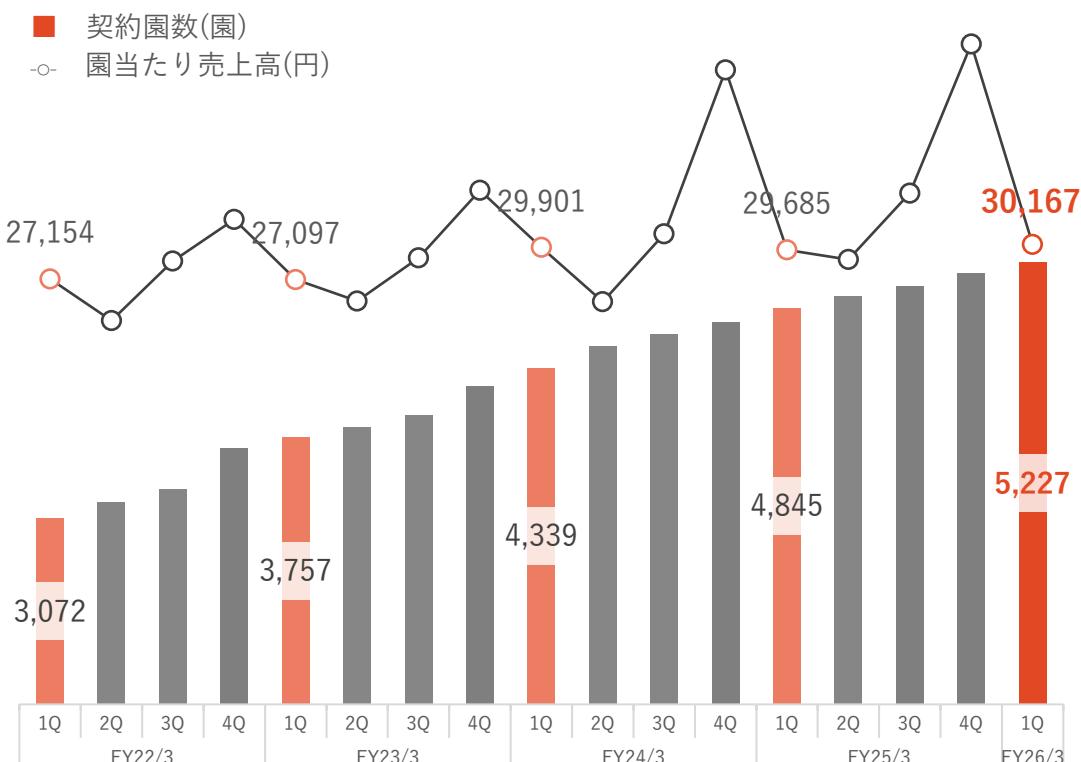
歯医者 編



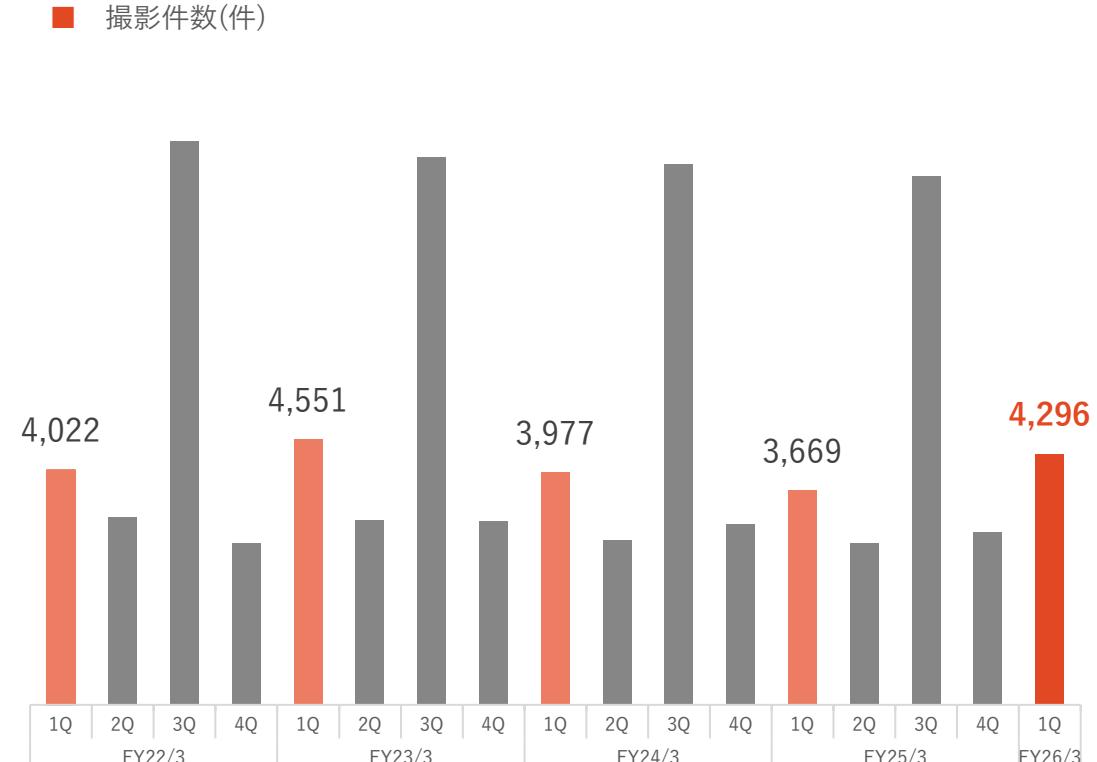
動画：<https://youtu.be/ngceimUh6A4>

- 「えんフォト」は契約園数が堅調に増加
- 「OurPhoto」は、高単価サービスの需要が牽引し、撮影件数が前年同期比+17.1%と大幅な成長を達成

契約園数・園当たり売上高(えんフォト)



撮影件数(OurPhoto)



株式取得の概要

対象会社	株式会社横浜綜合写真
内容	全株式取得による完全子会社化 (横浜綜合写真の代表取締役は引き続き、同社の経営に関与)
取締役会決議日	2025年6月16日

リリース：<https://ssl4.eir-parts.net/doc/3979/tdnet/2639563/00.pdf>

株式取得の目的

- 横浜綜合写真は1985年に設立され、**主に首都圏の小学校、中学校、高等学校**に対して**写真撮影や卒業アルバムの制作・販売**といった、写真に関連する事業を展開
- 「世界中のファミリーにもっと幸せな思い出を届けよう」というビジョンのもと、当社が提供する幼稚園・保育園向け写真販売システム「えんフォト」および卒業アルバム制作システム「えんアルバム」との連携を図る。これにより、**横浜綜合写真が有するネットワークを活用し、小学校などへのサービス展開を加速させることで、「えんフォト」「えんアルバム」の業績拡大を目指していく**
- 子会社化に伴う当社連結業績への取り込みについては、2026年3月期第3四半期以降となる予定

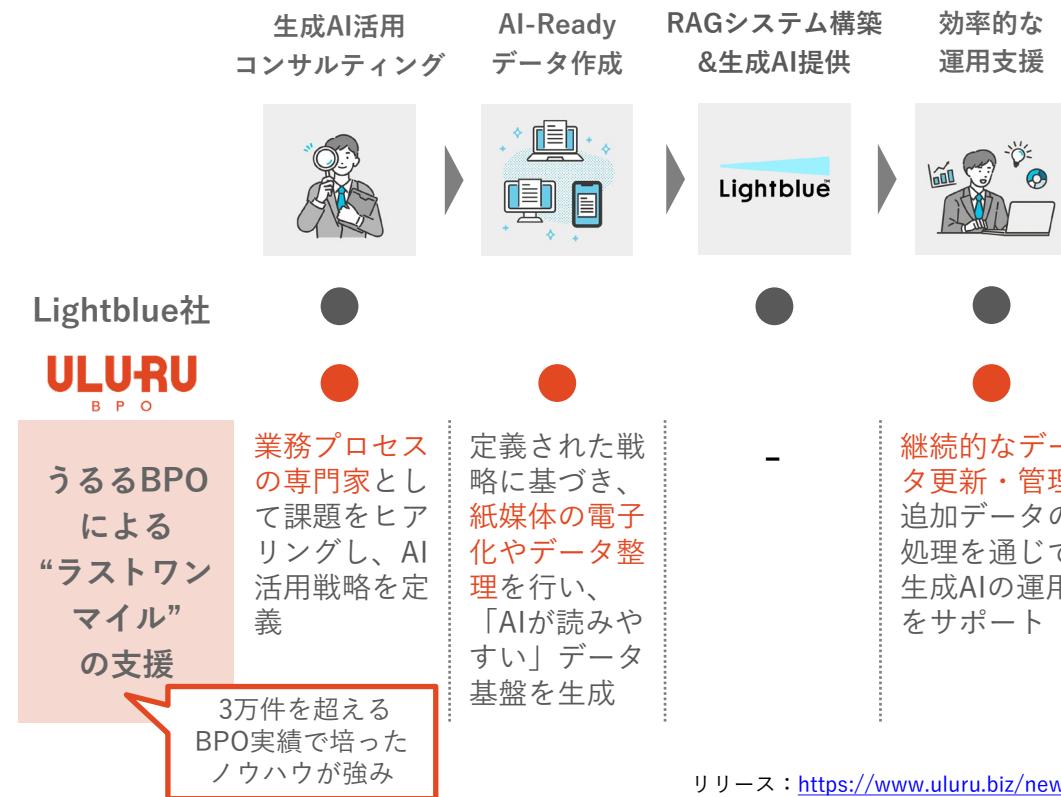
対象会社の概要

Y.S.S 株式会社 横浜綜合写真

事業内容	広告、宣伝に関する企画・制作、管理ツールの作成、撮影、印刷、その他に関する業務
所在地	神奈川県横浜市港北区新横浜1丁目3番1号 新横浜アーバンスクエア6階
代表者	川西 圭介
設立年月日	1985年9月7日
売上高	228百万円(2024年8月期)
資本金	15百万円

- 当社が2023年10月に出資した東京大学発のAIスタートアップ・株式会社Lightblueと連携し、**企業の生成AI活用において成否を握る「データ整備」を支援**する新サービス「AIブリッジ for Lightblue」を7月23日(水)より提供開始
- メーカー、インフラ、建設業界など、知識集約型の産業が主なターゲット

導入から運用までを一気通貫で支援するBPaaSモデル



リリース：<https://www.uluru.biz/news/15652>

今後の展望

本格的にAI領域へ踏み出す、重要な第一歩

今回の提携を皮切りに、あらゆるAI活用シーンにおけるデータ基盤構築を支援するプラットフォーマーとしての役割を強化

BPO事業で培った現場力とデータハンドリングの強みを最大限に活かし、**AI×BPOのリーディングカンパニー**を目指す

うるるBPO代表 桶山によるコメント



AI導入の成否を左右するのは、質の高いデータ整備です。うるるBPOは、AI活用の生命線ともいえるこの地道な作業において、専門チームが人手で『ラストワンマイル』を埋めることで、お客様のAI導入を成功に導きます。

対談コンテンツ：うるるBPO×Lightblueが語る「AI-Readyな環境」づくり ULUlogにて公開中：
<https://blog.uluru.biz/10754/>

- 「ULURU IMPACT BASE」は、労働力不足問題解決のリーディングカンパニーとして、労働力不足問題の解決に挑む企業へのマイノリティ出資を加速させるべく立ち上げたプロジェクト
- 当社のビジョン実現にむけて、「埋蔵労働力資産^{※1}」活用の旗を掲げ、志をともにする企業との協働を通じて、社会全体にポジティブなインパクトを生み出すことを目指す



社名	株式会社Lightblue	いろはな株式会社	株式会社エイジレス
出資年月	2022年4月	2025年4月	2025年8月
事業内容	自然言語処理AI・画像解析を軸にソリューションを開発 ・法人向けAIアシスタントサービス「Lightblue」 ・人物にフォーカスした画像解析システム「Human Sensing」	外国籍社員の雇用管理DXサービス 外国籍社員の人材採用支援	・ミドル・シニアIT人材向けキャリア支援サービス（転職エージェントおよびフリーランスマッチング） ・ITプロフェッショナル特化型転職サイト ・営業顧問サービス
トピック・今後の展望	株式会社うるるBPOと協働し、「AI ブリッジ for Lightblue」をリリース ※プレスリリース： https://www.uluru.biz/news/10435	出資により、両社の関係強化にとどまらず、 外国人労働者の創出・活用 という新たな領域への事業展開も検討 ※プレスリリース： https://www.uluru.biz/news/15267	労働力不足解決には、 ミドル・シニアの労働力創出・活用が不可欠 と考えており、エイジレスの取り組みを 社会的に価値ある挑戦として応援・支援 すべく、今回の出資を決定 ※プレスリリース： https://www.uluru.biz/news/15710

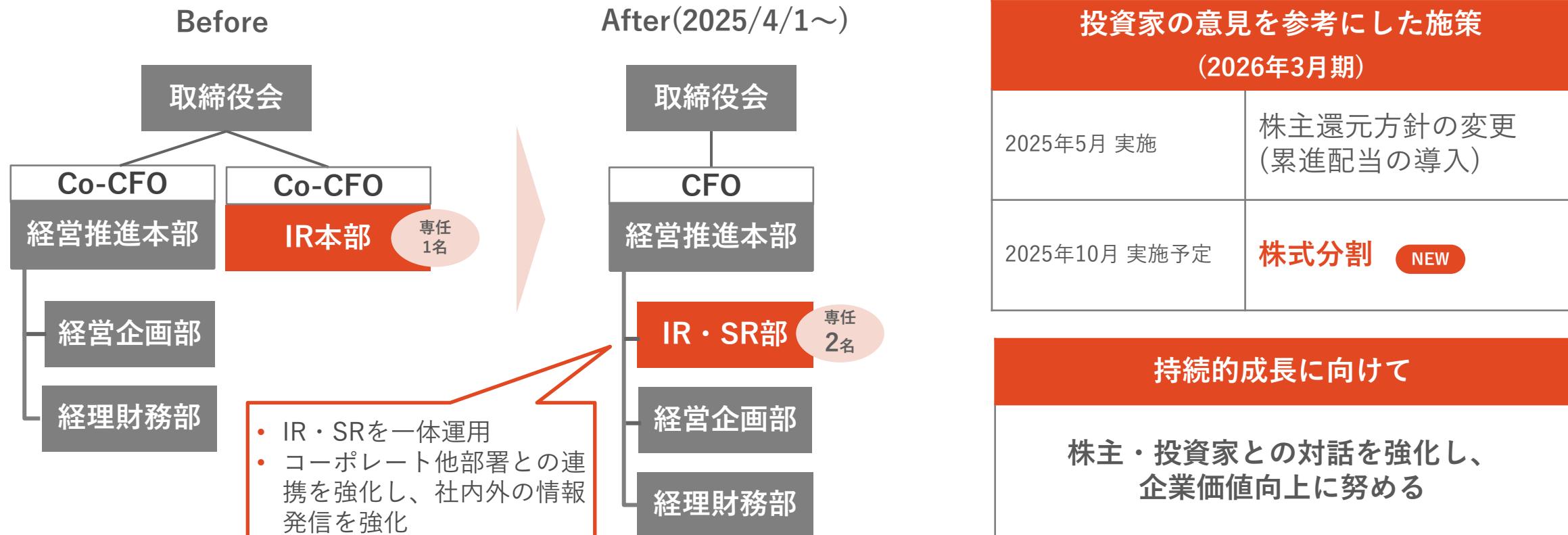
※1 「埋蔵労働力資産」発表に関するプレスリリース(2025年)<https://www.uluru.biz/news/14928>

- 2025年10月3日(金)に、自治体DXを加速させる官民共創イベント「GovTech Bridge Conference 2025～CIO補佐官と民間ソリューションで行政DXを加速させる～官民共創の祭典～」を東京・汐留で開催予定
- 自治体の現役CIO及びCIO補佐官やDX推進担当者、また自治体DXを支援する民間企業など、官民総勢500名以上が集結する、官民双方にフォーカスしたイベント。この規模と内容でのイベント開催はこれまでに前例がなく、自治体DXの推進に向けた重要な機会
- 今後も、官民をつなぐ立場として官公庁のDX推進を後押しすることで、日本の深刻な労働力不足問題の解決に貢献



公式サイト：<https://lp.govtechbridge.com/>

- 2025年4月1日より、**IR活動を強化**するためにIR部門をIR・SR部へ改組
- 投資家の皆様からのご意見を取締役会へ報告する体制を一本化し、CFO直下で経営企画部も属する経営推進本部に機能を移管。これにより、資本市場からの要請を、より迅速かつ的確に施策に反映させる体制を構築





本資料の端数処理につきましては、切り捨て(%表示の場合は四捨五入)を原則としております。

本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報(forward-looking statements)」を含みます。

これらは、現在における見込み、予測及びリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの基準と異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。

それらのリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内及び国際的な経済状況が含まれます。

本資料は当社についての情報提供を目的とするものであり、当社株式の購入や売却等の勧誘を目的としたものではありません。投資に関する決定はご自身の判断において行っていただくようお願いいたします。

株式会社うるる <https://www.uluru.biz/>

お問合せ先 ir@uluru.jp

公式 X https://x.com/uluru_ir